

開催行事報告

新盆法要・孟蘭盆会法要

令和2年7月13日(月)

代々続く伝統行事

法要を通して結び合うことが大切です

午後1時から新盆法要が、続いて2時から孟蘭盆会法要が営まれました。今年は法要の時間も短縮し、恒例の法話も省略して執り行われました。多くの参加者がマスクを着用し、本堂入口の洗心閣・玄關で手指を消毒して法要に臨みました。

安本由道ご住職は「コロナ禍にもかかわらず皆様がご先祖様を偲び、ご供養に来てくださることは大変ありがたく、どうか無理なくお参りください」と話され、「変化の激しい時代ですが、代々続く伝統行事で日本独自の文化である法要は、ご先祖様あつてのものです。我々はご先祖様に生かされ、その恩恵を受けています。感謝してお墓参りをされ、奉仕や供養を通して家族・親族が結び合うことが大切です」と、今年初めて仏様になった故人を迎える新盆法要参加者に呼びかけました。



(上)ご住職のお話を聴く参加者、(中)椅子を離して配置、(下)法要後、卒塔婆を受け取る

大施餓鬼会法要

令和2年7月23日(木・祝)

コロナ禍の一日も早い終息を祈り すべての生命、ご先祖に感謝

8月1日が梅雨明けとなった今年、7月23日も雨模様となりましたが、本堂や境内のテントに参加者が詰めかけ見守るなか、大施餓鬼会法要が営まれました。例年では40人もの僧侶が読経しながら本堂を練り歩く荘厳な当山最大の行事ですが、今年は規模を縮小して行われました。

法要後には参加者全員で、コロナ禍の一日も早い終息を願い、すべての生命、ご先祖に感謝して施餓鬼棚(施餓鬼の時に設ける供養壇。三界万霊牌(※)を安置し、五色の供養幡を立て、供養のお膳を供える)に手を合わせて焼香しました。

※この世のありとあらゆる精霊を合祀した位牌。



(上、中)お焼香する参加者、(下)僧侶も参加者も密に注意して執り行う